（1） 日刊（除月曜） 昭和21年6月1日（第三種郵便物認可） 昭和24年2月23日 運輸省特別扱承認第238號 いわき民報 夕刊 昭和25年10月4日（水曜日） 第1343號

いわき民報

發行所 平市田町48 電381 176 1222
いわき民報社
編集兼發行印刷人 田原登

朝鮮動亂で米の決意固く
産業と人を動員
渡米中の武藤氏から便り

去る七月末アメリカの産業經濟事情を視察の爲急據渡米した武藤炭勞會長から二日、磐炭勞大河原支部長宛に派手な航空郵便による手紙が屆いた内容によると

八月七日サンフランシスコ到着以來、各地を歴訪、今シカゴに來ており、アメリカでは第二の都市といわれ日本人だけでも約三万人が在住し、日本の講和が終らない中は日本人會の結成はせず救濟協會としてあるそうで、日本人は殆んど働いており組合にも自由に入つている、こゝには有名な日本人の組合のオルガナイザーがおると聞いているがまだ會つてない、朝鮮事變にはアメリカの決意は相當なもので日本で想像する以上の産業と人の大動員が行われている、大体アメリカは本年六月以前は完全に經濟が安定していたので勞組は主として社會補償的な要求年金、健康保險手當等の斗爭をしていたが事變以後は若干インフレ的傾向で物價は上つており從つて勞組も賃金增額の斗爭に變つている、アメリカの組合は全國組合一本主義である爲、單組の機構は簡單化されて中央に集中、專從者もおかない位だがその變り本部には三百―七百という專從者がいて地方を常に指導している、事變に對する勞組の態度は全く協力的である、重要産業工場は事變後、九月十五日から陸軍省の命令で立入禁止となつたので樣子がみられずフォード自動車ゼネラルモータスの工場を見た程度だつた

というもので投函日は九月二十四日讀みにくい手紙だつたが執行部員一同大よろこびだつた

二百五十名のワク獲得
失業對策の運動奏功

平職安所管内における第三、四半期失業對策事業の就勞わくの擴大に就ては先般來失業對策部會、各町村代表等が再度に亘つて縣及び中央關係當局に其の苦境を陳情ワクの擴大方を要請中であつたが、此の程現在迄の努力が功を奏し二百五十名の就勞わくを增大する旨の朗報がもたらされ失業者の前途に光明を投げかけている、即ち第二、四半期に於ては登錄失業者二千四百十名に對し國庫補助による就勞のわくはわずかに千五百二十名であつたものが第三、四半期に於ては二百五十名のわく擴大により千七百七十名の就勞が可能となり加えて求人開拓運動の實施等によりアブレの數が幾分減少するわけである、しかしわくは增大されてもそれに伴い第三、四半期の登錄失業者は二千五百七十一名と增加を示し二百五十名程度の就勞わくの擴大ではまだ〳〵毎日平均六百余名のアブレ失業者が路頭に迷うことになり、今後のわく擴大運動に多大の期待がかけられている

十二月十七日に變更
平競輪 開催日決る

平市競輪運營協議會第一回委員會は二日午後一時から市役所に委員五十數名の參集で開き、同運營協議會規定の審議後第一回競輪開催執務委員の編成を行い、競輪開催の日取決定に就き協議したが、過般の競輪促進委員會の決定による十二月八日を變更十七日から六日間と決定、第一節は十七（日曜）十八、十九の三日間、二十、廿一日は休み第二節は二十二、二十三、二十四（日曜）の三日間開催と決定した市では第一回開催前に備え模擬練習を一週間位前迄二回程實施する計畫であり市競輪場の開場式は十六日と決定第一回平競輪開催執務委員には委員長に阿部助役副委員長に石山市議外二名總務委員に小松市議外十四名番組編成委員に片寄安藏氏（市職員）外二名檢查委員に賀川平醫師會長外一名管理委員に齊藤市議外一名、審判委員に橋本久三郎氏（振興會）外一名發送合圖委員に小川秀吉氏（振興會）外一名投票委員に根本市收入役外一名場内取締委員に宇佐見市署長外四名の合計三十七名を決定した、なお市營平競輪運營協議會の顧問並に委員も決定した

皇太后様
あす午後一時御通過

皇太后陛下は宮城、岩手兩縣の蠶糸關係視察の爲四日常磐線で本縣を通過されるが平着は午後一時五分となつている

港灣問題で五日上京

小名濱町では二十六年度港灣修築費豫算獲得のため水野町長、菅原町會議長、立花港灣委員、野崎港灣調査委員會長らが五日朝の急行で上京、大竹知事と東京で落合つた上運輸省港灣局へ第三回目の陳情を行うことになつた

物監委表彰式

平地區物價監査委員高木市議外十氏に對する關東物價廳長官からの表彰式は二日午後二時から市署、平地區兩署長の臨席のもとに開かれた

特製 中華そば 60円
始めました
【出前迅速】
ブラジル
平並木通り・電九九〇

榮久丸消息を斷つ
巡視船救助に向う

江名町大字江名大久保卯之吉氏の榮久丸（一八トン）は乘組員十七名をのせ去月二十九日出港したまま五日目になるのに何らの消息がないのでおそらくエンジンに故障をおこし漂流しているのではないかと同船主から三日朝小名濱海上保安部へ搜索方を依頼してきた、同船は茨城縣久慈沖合にいる模樣なので三日午前十一時十五分巡視船うづらが救助に小名濱を出港した、なお同船には無線通信士は乘組んでいないため通信連絡は出來ないでいる

主人宅を荒す

江名町走出八二水產物加工業大峰福次郎（四九）方雇人、埼玉縣川口市一丁目加工人夫淺倉麗保（二三）は去る一日主人の鷄小屋から鷄一羽、アゲモノ一貫匁等九百円相當を盜み二日江名町署に御用

電化促進運營會議開く

常磐線電化促進運營協議會は關係者二十余名を集めて二日午後二時から平市役所内會議室に開き、二十二年度から現在迄の經過報告、二十五年度の豫算の審議、今後の運營方針等を協議、資金資材の面では困難な情況にあるが茨城縣出身の山崎運輸相の協力の下に茨城縣電化促進委員會ともタイアップ初志の完遂に邁進することを申し合はせ同四時散會した

完全給食は返上
平四小食糧に困窮しないと

平市第四小學校（兒童數四百十四名）では市内四小學校の完全給食の報せを受け先月二十八日PTA總會を開き、その對策を協議したところ▽平四は農村地帶で食糧には大して不自由しない▽生活困窮者も二十三名あつて今後も增加の見込みである▽完全給食となれば從來の三十円程度で濟んだものが一人百三十円に値上げされゝば父兄の負擔もよういでない▽完全給食にはパン食となるが現在でも小麥粉によつてパンを食べている等といつた理由から完全給食反對の意見多く學校當局では三日この實態を調査して縣にその當否を具申した、父兄側としては完全給食は一應中止して從來のままの副食給食でよいというもので生活困窮による給食費の未納は全兒童の一割程度で成績は惡い方ではない

精米所に賊

小名濱町大字大原字中坪二一五精米業渡邊昇（五一）さん方では二日夜精米場裏手の壁を破られ加工のため預り中の新米五斗三升を盜まれた

炭鑛技術員修了式擧行

内郷町内町東部石炭協會炭鑛技術員教習所では去る三十日第七期生二十六名の修了式を擧行、八期生は三十名で特別講師として東京大學教授青山秀三博士、同水田純一博士、同助教授伊木正二、早稻田大學教授中野實博士尚選炭の權威者石川金三郎の諸氏が決定炭鑛技術を教導することになつた、尚この教習受講者は炭鑛現場職員の資格が得られ中堅幹部として優遇されることになつている

關内カップは平組へ
對湯本町野球戰盛會を極む

湯本町主催關内代議士寄贈カップ爭奪平市對湯本町第二回野球戰は二日午後三時四十分から湯本町淺貝常磐球場でファンの聲援を浴びて盛大に開催白熱戰を展開したが五A對四で湯本町チームが惜しくも敗れ平市チームが優勝昨年度優勝湯本町から晴のカツプを奪還、關内代議士からカツプを授與され五時半散會した

5A―4

湯本	2	0	0	0	0	0	2	0	0
平	0	2	0	2	0	0	0	1	A

5A―4

内郷一中優勝
中學排球大會

第三區（内郷地區）中學校男子排球大會は廿四日午前九時から赤井一中で開催された結果一位内郷一中、二位赤井二中三位赤井一中、四位内郷二中で内郷一中が優勝した

衣類泥擧る

双葉郡大野村生れ住所不定無職前科一犯八巻正直（四八）は一日午前一時頃磐崎村大字藤原農業千葉ケサイ（三二）さん方に侵入、衣類十八點（一万九千円相當）を盜んだ疑いで同夜湯本町署に捕まつた

傳染病

平六軒門二〇會社員眞木博さん長男秀明（七つ）ちやんは一日赤痢と決定、隔離された

酒泥あがる

小名濱町岡小名無職小關あきら（二八）は一日朝泉村で酒一升を盜んで泉駐在所に捕まつた、同人は三十日小名濱町後宿小松精米所から米三斗を盜んだほか相當余罪ある見込みで目下取調中

砲金泥擧る

江名町北町ガ七漁業坂本義信（五〇）方雇人好間村大字北好間字三反田二七漁夫小松星男（二一）は一日正午頃主人の加工場から漁船用砲金部品三十三點（二十九貫）二万五千円相當を盜み二日江名町署に捕まつた

鮫川に轉落死

川部村大字沼部字毘野農業鈴木榮さん三女美代子（二つ）ちやんは三十日午後二時半頃自宅前の鮫川に誤つて轉落水死した

縣の廣報車七日來平
郡内は五日から廻る

縣の廣報車は七日來平午前九時四十分から一時間に亘り平市七十七銀行側廣場で「火災豫防」「共同募金」に對する話と指導の會を催す、會の順序はレコード演奏、市長の挨拶、話と指導、質疑應答、終つてレクリエーションとのど自慢となつている、なお郡部ではこの外「里親制度」「食糧一割增産」等に就いての話もある、各町村巡り日程は次の通り

△五日四倉、大浦、草野、高久、豐間△六日江名、小名濱、泉、植田、渡邊、磐崎、湯本△七日内郷、平、小川、川前となつている

お座敷向 女中さん
急募
廿才より廿七才まで
但し多少經驗の有る方を望む
料理飲食店
エビス
湯本町東町電二六三

天眼鏡

市營平競輪運營協議會委員が決められた、果して並べられた顔觸れの中には承諾なしに名を書きつらねられた人もあつてどうしたものかと微苦笑した人も無いでないようだ、それは競輪そのものが惡いと云う天下の世論には勝てず競輪の運命は風前のトモシビの形になつて來たからである▲地元日刊紙日報と警毎も委員にされているが本社の名は入つていない、競輪反對の烽火を揚げたわが社に對し鈴木市長は好感を持たず公人としてあるまじき單なる私感情からオミツトしたらしい▼わが社としては有難い仕合せである、若し委員にされたとしても當然それを返上したからである、わが社は新聞の使命の上から理非曲直を知り公共の福祉の上に立つて勇敢に意見を述べるだけである、随つて個人を憎悪しないことは勿論である▼鈴木市政の物を中心とし心を輕んずる物慾偏重の政策と云うものが決して地方發展に寄與しないと信ずる、それで大部分批判を加えて來たことになつたが若しこの市政に迎合したなら多數の市民はやり切れない

天気予報

三日

【今晩】北の風、曇時々晴

【明日】北東の風、初め雲多く日中晴時々曇、海上は引續きおだやか

新設の明るい寫場
飯田スタヂオ
平市紺屋町

譲 住宅付土地
住宅二十坪（古家）
土地七二坪
場所 平市白銀町
姓名在社

洋服 洋品 服地
秋の……替ズボン
◆特別奉仕中◆
★夜間營業を致して居ります★
平市銀座通
丸進

鷄肉と川魚
新鮮 兎肉を始めました
☆兎肉 百匁 七〇圓
平市白銀町
長谷川鳥肉店

標語
密造酒は飲むな買うな賣るな造るな持つてるな
福島縣酒類卸協同組合平支店
平市三丁目電二一四一
平稅務署

藤越の特選會
10月5日より
10月15日まで
【營業時間 8時半―5時半】
新秋にふさわしい優良品大特價・特賣場新設 （その一）

明治キヤラメル	20円を	17円	ウールオーバー地（毎日先着2着様）	4000円を	2000円
いわし罐詰	45円〃	38円	男子オーバー	4500円〃	3500円
くじら〃	40円〃	36円	絹紡紬糸ネル	180円〃	120円
のり瓶詰	45円〃	40円	ウール服地	350円〃	300円
岡田バター	170円〃	155円	靴下（短）最低	65円〃	55円
漫畫繪本	定價の半額		〃 最高	140円〃	105円
ノート	50円を	40円	〃ソクレツト	75円〃	55円
文化人形	200円〃	140円	子供セーター	250円〃	200円
買物籠	300円〃	250円	化粧洗濯石鹸	20円〃	16円
電氣スタンド	340円〃	300円	燒下駄鼻緒付	65円〃	55円
シルクシエード	75円〃	50円			

名月談義ふたゝび

（下）

渡邊何鳴

でもさすがに仲秋で空氣が水がながれるようにさわやかである、沈思黙想ののち幾多の傑作が生み出されたのであるがその夜の秀作ともいうべきものを拾つてみよう

小野先生の

段畑の境のスゝキ花盛り

群雀下りるあたりやスゝキ原

金子先生の

霜ながら皆ちぎられし茄子かな

松本先生の

秋茄子のかそけき花は散りもせで

柴田先生の

葉枯して小さくなりぬ秋茄子

スゝキ野や一人しゆけば虫の聲

加治先生の

子の提げし籠の重さや新茄子

そのほか

たまさかに見えしすすきの二人影

などというアベックものも出てなかなかの賑わいであつた合評やら雑談やらで時のうつるのを忘れたのであるが、遠方へ歸られる方々もあるので八時すぎ散會、終始樂しい良夜の句會であつた、五月會の今後の發展を期待してやまない、なお當席上筆者の出句は

秋茄子割れたるもあり皆ちぎる

穗スゝキのかしこに碧湖展けたり

秋茄子出水の泥のひからびて

○　○　○

青柿會は筆者の都合で八時すぎから久保町の泉藏院で開かれた、矚目吟として約六十句

掘わり一つ隔てたいわば市の郡外ともいうべき久保町は閑靜で市街の騒音を全くはなれた別天境である、青柿會が誕生して約二ヵ年も經過しているが毎月例會をもつて一度も缺かしたことがないのである、從つてレベルも相當向上していずれも互角であろうか散會したのは十一時、月は中天にあるのであるが雲にとざされて明光を發しない、さながら朧のごとくである。

月を觀て歩くともなく歩きけり

月光のなかにわが家もありにけり　茂堂

ちゝろ鳴く追いつめられしかなしさに　左彦

つつぱしる魚の影あり秋の水

夜なべ妻あはれ亡き子の繪を壁に　よしを

秋晴や杭打つ音の四方にとび

故里たちてはや十年なる今日の月　粢子

いらかみな白々として今日の月

礁うつ波きらい望の月出づる　蟬子

望の月いらかのはてに赤々と

緣ちかく月光及ぶ膝を抱く　何鳴

月今宵一間の障子閉さでおく

月今宵卓に葡萄のコハクあり

月の豆盆にあふれむばかなる

無月にもあらで朧のごとくなり

座を起ちて緣に今宵の月仰ぐ

月の座やこほろぎのこえ一面に

名月や椎の木立の眞暗く

今日の月はなして雲にとざされし

無線施設の建設へ

海上保安部　猛運動を開始

小名濱海上保安部では强力な陸上無線通信施設を建設しようと衆院電通常任委員長の地元選出關内代議士を通じこれが實現のため陳情する一方小名濱町並に縣下各海事關係者の署名を得て近く海上保安廳に陳情することになつた、同海上保安部では今まで遭難船などで配屬巡視船らずらとの連絡を行う場合無線裝置をもつていなかつたため一々鹽釜の海上保安本部に陸上電信で報告し同本部から無線で巡視船に連絡したためこの間約二、三時間も要する有様であつたのをこの機會を利用して一擧に無線通信施設を建設しようと云うもの、同本部の陸上無線通信施設計畫によると

△五百キロサイクル聽守及び船艇通信（無休）△通信方式はグレークイン方式△電線設備常時單相交流百ボルト△電動發電機六馬力、三キロ、三十キロアワー・コンパーター九十ワット△送信裝置空中線出力二百五十ワット、水晶製御電力增幅眞空管式五十ワット△周波數變更方式手動一擧助方式△受信裝置長中波、短波全波受信機計四台△鐵塔三十米三基

これが實現すると一般漁船からのSOSも直接海上保安部がキャッチし巡視船に緊急連絡する事が出來るので海難關係には一大威力を示すことになり早くも本縣海事關係者から實現を期待されている、なお敷地は港灣附近の高台が豫定されており保安部廳舍と連絡のとりやすい場所を選衡している

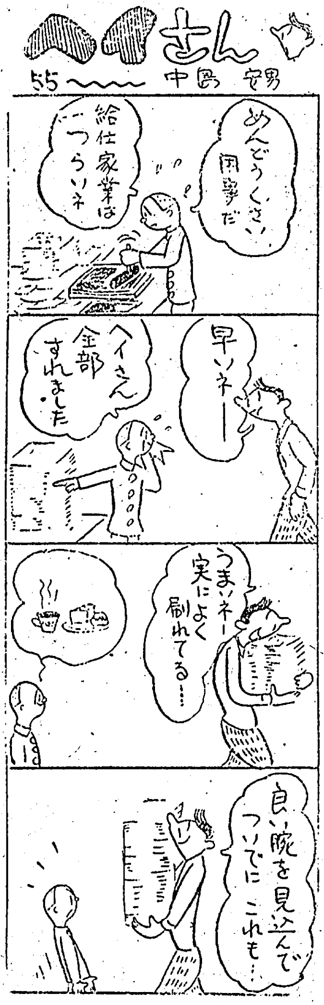
右について遠山部長は語る

今度の保安廳關係追加豫算で何んとかこれだけは實現したいと思つて運動に乘出した、横濱－鹽釜間唯一の保安部として陸上無線通信施設は是非必要でありこれを機會に關係者の協力をお願いするのみだ

指示案に隨う

平跨線橋架設問題

平驛跨線橋の架設問題に就いて市當局では先の陳情案とは別個に現在の棧橋から北方と南方に延長、一般通行人も通行出來、上り、下り、磐越線の乘客を同棧橋の中間に設ける出入札口で乘降させる第二案を運輸省に陳情した、この結果運輸省側では『この案では相當この棧橋が混雜するから別途にその西方に棧橋を設けた方がよいだろう』との指示を受けて來たので、大体この案で進むことになつた、この案に就いて大垣平驛長は『平驛も別個に交渉しているもので近く本省から通知があるとみているが、この棧橋を設けることは混雜をふせぐ上、南北の交通を円滑にさせると思う、費用はザット千八百万円位の見當と思うが、地元では最低半分位負擔せねばならないだろう、兎に角平驛では毎月平均一千万円の收入があるから大丈夫同問題解決に一役買つているわけであると語つている


ヘイさん
55
中島安男
めんどうくさい困学だ
給仕家業はつらいネ
早いネー
ヘイさん全部すれました
うまいネー実によく刷れてる……
良い腕を見込んでついでにこれも……

火防表彰式

九日擧行

平市火防組役員會は二日午後二時より平市役所内に開き左記事項につき協議決定した

△火防標語及作文審査會十月五日十時より△同表彰式九日十時より（以上平役所にて）△火防懇談會九日才槌小路、十二日舊城跡、十四日立町堤ノ内（以上何れも午後七時より）

愚庵の建碑は明後年

石城歌話會で申合せ

石城歌話會例會は一日平市公會堂で開いた、集まる歌人は尊風會長始め五十餘名、作歌を互選の後郷土が生んだ偉大なる歌人故愚庵の建碑問題について協議したが、碑は廿七年度に建てる、これが資金は縣下各方面の贊助を受ける事に決定、幹部に一任となつた

汽罐講演會

七日開く

平勞基署では日本ボイラー協會後援の下に七日午前九時から小名濱町日本水素小名濱工場に汽罐關係講演會を開催するが講師は日本ボイラー協會長、神奈川大學教授（工博）朝倉希一＝演題日本規格の指導的性格について、東京都大學教授石川政吉、各種粗惡炭燃燒裝置について、西日本重工株式會社顧問、日本ボイラー協會專務理事吉水直一＝ボイラーの据付並びに練瓦積工事について＝の三氏で、終つてから同工場内の還元逆流粗惡炭燃燒裝置効率試驗の公開を行う、聽講無料

將棋大會成績

平將棋互樂會大會は一日擧行優勝カップはA組前田利雄氏が獲得した、成績次の通り

A組　優勝前田利雄、二等鈴木義雄、三等鈴木寅雄、四等石井政義

B組　優勝鈴木彰、二等菊地茂男、三等渡邊一男、四等加藤末吉

C組　一等小松谷寳、二等星源吾、三等白土東一、四等澤井勝之

市營平競輪運營協議會委員

平市で決定した競輪運營協議會委員は左の通り

◇顧問　衆議院議員　高木松吉、同關内正一、參議院議員　木村守江、知事　大竹作摩、副知事　大和田彌一仙台通商産業局長　岩崎松義、縣會議長　蓮沼龍輔、縣警察隊長　野田章、縣農地課長　澤田省三、縣商工課長　渺沼重三、地方事務所長　稲崎利勝

◇會長　市長　鈴木辰三郎

◇副會長　助役　阿部治英、市議　石山一治、振興會永野孝夫

◇委員　市會議長　金古政通副議長　松本金市郎、一部委員長　馬目武之助　二部同　吉田嘉代治、三部同木村淳、四部同　柴田德二五部同　佐藤源吉、五部同小松茂、同　齋藤角治、同花澤久一郎、同大塚駒太郎同　市議水竹伊之助、同高木喬、同柏原秀藏、川和德一、縣振興會理事長　小川直吉、振興會　鈴木彌太郎旅館組合長　水竹泰助、地方事務所次長　芳賀三男、平醫師會長　寶川彌太郎、平驛長　大垣喜六、平地區署長　佐藤政八、平市署長宇佐見吾市、公安委員　矢吹大一郎、平市收入役　根本益利、商工會議所會頭諸橋久太郎、同副會頭　阿部政右エ門、常磐交通社長野崎藏藏、福島民報平支社長金子公、福島民友平支社長吉田文城、磐城毎日新聞社長　大和田與兵衛、磐城日報社長　後藤幸夫、平放送所長　青田三郎、石城町村會長　鈴木榮一、平消防副團長　、阿部傳六、磐城スポーツ聯盟　根本武雄、高橋猶松、伊藤一

◇幹部　競輪事務長　須藤茂左エ門、庶務課長　山野邊達卓、商工課長　渦嶋和一土木課長　大塚衛、營繕技師　渡部俊治郎

◇書記　競輪係　片寄安義、同鈴木農、同木村正太郎、商工課　柴田弘一、會計課田口惠和雄、庶務課　松本茂雄

常磐交通でバス增發

汽車時間の改正に伴って

常磐交通では十月一日からバスの增發など國鐵のダイヤ改正に呼應して發着時間の變更等乘客の便利を計つている

△平－澤渡線では十五時卅分の澤渡行きが三阪まで延長、三阪發六時四十分が設けられた▽平－宮線では六本とも不定期だつたのが定期になつた▽平－小名濱では急行バスが二本增、所用時間が五十分、平發七時、十五時卅分、小名濱發八時廿分十六時廿分、其他植田上遠野線－、湯本－小名濱線、植田－田人線、植田－平潟線、泉－上釜戸線がそれぞれ增發、四倉－湯ノ口線は四倉發八時五十分、湯ノ口發九時半が新設された

經理講習會

濱三郡營林署經理講習會は二、三兩日本社ホールで開き林野廳植木事務局、營林局豐田會計課長、小林照査課長外三名が講師で行われた

ケーブル線騙取

好間村北好間椎木平機械職工吉江衛（四〇）は去る七月ころ同村北好間小田炭鑛機械係渡邊荷より直ぐ返すからと同炭鑛所有の低壓用ケーブル線二十六米（二万円相當）を騙取、三日詐欺容疑で平地區署に御用

いわき俳壇

玉水吟社句會　兎丘選

コウロギや雨ふりつのる八ッ手の葉

國果ての海の夕燒に來る雁を

コウロギの闇に馴れつつ戻りけり　砂丘

降りまで眼は闇に馴れ虫の徑

窓の灯の一筋走る虫の闇

夜の帷小雨をもちて虫に垂る　たづな

大杉のモズに明けたりそまの家　花笑

虫一つ鳴きすむ土間の暗さかな

雀追うて歸る野道や夕あかね　右紅女

風鈴を遠くに坐り虫の聲

垣結ふ手元にふるく赤とんぼ

たて髮のほうけ立つ風馬肥ゆる　北窓

相應ふ百舌鳥に覺めたり月の朝

朝百舌鳥や良きケの見えてお茶の味

かまきりの小さきフン怒に鎌を立て　松甫

小雨ふる洗ひ場暗しきりぎりす

モズ晴れやペタル踏みつつ句一念　右紅女

かたくなな孤りの吾に名殘り蚊

かげろうや今日のいのちを書架にそひ　啞雀

雁の眞下騒げる海に向く

天の川溢れんとして虫の聲　紫水

競馬歸り筑波を遠くに鳥渡る

時化雲や阿武隈じぼる鯉の群　巨樹

ラジオ

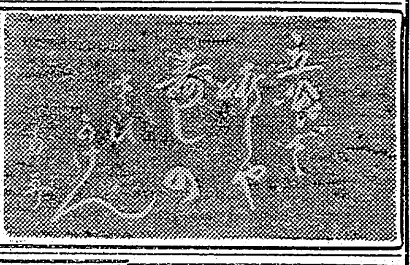
JOCP　JOHQ

【4日】　ローカル　郡山放送

前七・一五　心の灯『光の中の人生』郡山聖ペトロ聖パウロ教會牧師加藤泰治

後五・一五　子供の時間『唱歌組曲「秋」』郡山放送子供會　指揮八代成美

後六・三〇　青年の時間『第三回勤勞青年辯論大會優秀者發表＝日本産業と世界平和』橋本正一ほか



玉寿司
平三　電五七五

眼鏡專門
各眼科醫指定
玉屋
平二丁目（電910）

精工舍の時計
平一　トキワヤ時計店

折詰仕出し
江戸前
義寿司
世界館前
電一〇六三番

小兒科　内科
蓬來醫院
平市大町四二　電話一〇三二番

平市唯一
屋外ベランダをもつ
階上　皆樣の大食堂
不二屋
平驛前世界館入口電886

風味　やぶそば
別製　ちらしずし
江戸前　立喰　寿し
出前迅速　新扇屋
平市中央通り電886

肛門科　外科
上田醫院
平市南町（平局裏通）電話一二九番

靴専門店
菊一
平三　電446

味覺の秋に…
[illegible]のコロッケを！
（7円50）
平一丁目　中央通

眼科
松崎醫院
内郷第二イワキ驛　電話（綴）一二三番

技術を誇る
丈夫で明るい發電ランプ
三ッ葉ランプ
【全週轉部一晝防水式】
丸米の自轉車
代理店　矢野輪業商會
平・才槌小路電166